

札幌市市民活動サポートセンター運営協議会
令和5年度 第1回実施概要

1 日時

令和5年7月26日（水）18：00～19：30

2 会場

札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室3・4

3 出席者

- (1) 委員：今野 佑一郎 委員（NPOのための弁護士ネットワーク）
繁富 奈津子 委員（一般社団法人 North-Woman）
新納 美美 委員（社会的健康と地域づくりを支える研究会）
松田 剛史 委員（藤女子大学 人間生活学部）
水谷 あゆみ 委員（NPO 法人 ezorock）
岩崎 銀司 委員（一般社団法人北海道健康医療フロンティア）※公募委員
大島 真理 委員（札幌市市民文化局市民自治推進室市民活動促進担当課）
- (2) 札幌市：市民文化局市民自治推進室市民活動促進担当課長
- (3) 事務局：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会
五十嵐 健二（札幌エルプラザ公共4施設館長）
川村 悟 （札幌市市民活動サポートセンター）
岩崎 加奈 （札幌市市民活動サポートセンター）
國行 彩斗 （札幌市市民活動サポートセンター）

4 議事

- (1)はじめに
(2)運営および施設利用状況について（令和4年度報告）
(3)令和5年度事業計画について
(4)その他 意見交換

5 議事概要

- (1)はじめに
- ・今年度より新たに第5期指定管理となったが、この5年間についても公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会を受託させていただいた。
 - ・コロナ禍からの復帰を目指しており、皆様のお知恵やお力をお貸しいただきたい。

(2)運営および施設利用状況について（令和4年度報告）

(3)令和5年度事業計画について

・令和4年度利用人数は、令和3年度と比較し、およそ1.5倍程度となり、コロナが始まった年度と同様の水準となった。コロナ前の年度と比較し利用者は2万人減となっているが、コロナにより活動していない団体が増えたためである。

・NPOセンター「ユース世代がソーシャルキャリアを考える」を実施。センターを利用したことがない参加者も多く、市民活動センター自体の周知につながった。

・今年度は担い手の育成に力を入れている。

・ファンドレイジングの講座を令和5年3月、令和7月に実施。専門性の高い内容だったが、参加人数が多かった。以前は専門性が高い内容は参加者が少ない傾向があったが、コロナ後の利用者層の変化を感じた。

・しみさぼマルシェは、昨年度は「お試し」で実施していたものを、今年度は2か月に1回実施している。1階のエントランスで実施することで、センターや活動団体の周知についても効果を期待している。継続して実施することで、イベント自体の周知も見込んでいる。

・NPOインターンシップ…今年度は力を入れており、昨年度よりも学校説明会の回数を増やし、オンラインでの説明会も実施した。また、事務所ツアーも復活させ、その様子はYoutubeで限定公開し、参加者が見学できなかった団体の様子も見られるようにしている。

・昨年度の議題としてあった、HPのリニューアルについて、アクセシビリティ認証を取得した。4施設のホームページについてもページ改装等の改修を行う予定である。

(4)その他 意見交換

<NPO インターンシップ>

・受け入れ団体側の受け入れ態勢づくりの素地となっている。受け入れ団体側の課題「なぜボランティアを必要としているのか」という点について、フォローがあると良い。

<しみさぽマルシェについて>

・毎月第〇週の〇曜日と固定することで、市民への周知が図られるのではないかと。

・出展団体は、今までサポートセンターと接点があまりなかった団体やすでに独自に活動している団体の参加があると、活動団体同士やセンターとの新たなつながりになるのではないかと。

・子ども達と出展したが、他の出展団体からたくさん声をかけていただくことで、子供たちのやる気につながった。出展団体のメリットとして「他の団体とのつながりができる」という点を、もう少しアピールしても良いと感じた。

・出展について、今回参加した大学生から「人と関わる楽しさを初めて知った」と聞いており、とてもいいチャンスになったと感じた。現在、出展は登録団体のみとなっているが、市民活動サポートセンターに関係している教員がいる場合は、登録に限らず学生を受け入れることで、多世代交流に繋がり、事業としての幅が広がるのではないかと。

・レイアウトは、より人の流れができるような配置があれば良い。

・「リラコワ」(エルプラザ4階にある、女性のためのコワーキングスペース)で開催しているマルシェは昨年12月から毎月開催しており、最近では次回の開催について問い合わせをいただくようになってきた。「しみさぽマルシェ」もこのまま継続していくことで、少しずつ周知されていくと感じる。

<しみさぽフリーサロン(交流サロン)>

・昨年度の交流サロンで実施した「スマホ教室」は参加者が少なかったが、丁寧に教える必要があるため、参加者数としては適正だったと感じた。実際に参加したが、講師の先生とは今も交流があり、とても感謝している。ぜひまた開催してほしい。

・最近では携帯ショップでも無料でのスマホ教室もあるため、有料で参加人数が多いという開催形態は難しいかもしれない。

・「交流会」として交流できることを打ち出すことで、他の方と繋がりたい方の参加が増えるのではないかな。

・リラコワでは月に1回マルシェをや開催しているので、「しみさぽマルシェ」「しみさぽフリーサロン」ともに、チラシを配布して広報するなど、連携できれば良い。

・交流サロンを継続的に実施するうえで、何のためにするのかという目的をしっかりと持つことが大切である。「ここを知ってもらおう」ということをベースに持ちつつ、いろいろなことをやれるプラットフォームを持ってはどうか。

以上